

当院における急性期血行再建療法の治療成績

Results of endovascular recanalization therapy for acute ischemic stroke in our hospital

望月 洋一¹⁾ 赤路 和則¹⁾ 片野 雄大³⁾ 志藤 里香¹⁾ 木村 浩晃²⁾ 神澤 孝夫³⁾
谷崎 義生¹⁾ 美原 盤²⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経外科

Department of Neurosurgery, Mihara Memorial Hospital, Isesaki, Japan

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 神経内科

Department of Neurology, Mihara Memorial Hospital, Isesaki, Japan

3) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳卒中部門

The Cerebrovascular Division, Mihara Memorial Hospital, Isesaki, Japan

[目的]近年、SolitaireシステムやPenumbraシステムといった血栓回収デバイスが我が国において導入された。当院では、これらの機器の使用を含めた急性期血行再建療法を積極的に施行している。治療成績をまとめ検討した。

[方法]2010年10月から2015年5月に治療を行った急性期脳主幹動脈閉塞症52例を対象に患者背景、治療結果を検討した。男性35例、女性17例、年齢は42歳から88歳（中央値69歳）であった。来院時NIHSSは8-35（中央値19）、ASPECTS-DWIは4-11（中央値7）、病型は心原性塞栓が28例、アテローム血栓性梗塞が20例、頸動脈解離が3例であった。閉塞血管はICAが23例、M1が20例、M2が2例、BAが5例、PCAが2例であった。52例のうち、rt-PA静注療法無効例が25例であった。閉塞部位や病型に応じてSolitaireシステム、Penumbraシステム、Merciリトリーバー、バルーンPTA、マイクロガイドワイヤーによる機械的血栓破碎、rt-PA動注、頸動脈ステントを組み合わせる治療を施行した。そのうちsolitaireシステムを7例、Penumbraシステムを18例、Merciリトリーバーを11例に用いた。

[結果]再開通は、TICI 2A以上が46例（88.4%）、2B以上が30例（57.6%）に認めた。3か月後mRS 0~2の予後良好例を18例（34.6%）、死亡例を2例（3.8%）に認めた。死因はそれぞれ、心不全の悪化と広範囲梗塞によるものであった。1例で治療翌日に症候性頭蓋内出血を認め、開頭術を施行した。

[結論]新規血栓回収デバイスの使用を含めた急性期脳血管血行再建療法により、既報告と同程度の再開通を果たし得た。閉塞部位や病型に応じて複数の手技を組み合わせる用いる

必要があった。今後は、症例選択や治療手技について更なる検討が必要と考えられる。